

「振り返る活動」の充実もめざしていきましょう③。

「めあて・まとめ・振り返り」をセットに。

今回は、下記3点の課題から「3」について紹介させていただきます。

- 1 子どもがまだ「振り返り」を書けない（低学年）
- 2 「振り返り」はどのように書かせればよいか分からない（各学年）
- 3 振り返る時間（コメントを含め）がなかなか取れない（各学年）

3 「振り返る時間（コメントを含め）がなかなか取れない」について

振り返りを取り入れようとした場合、まずはじめに次の2点が課題として上がるのではないのでしょうか。実際に私がそうでした。この2点を解決するために秋田の先生方からいただいたヒントを紹介させていただきたいと思います。

- (1) 単位時間（45分間）内に
振り返りを行う時間が無い

この解決策は、教師も子どもも「振り返りまでが学習活動である」という意識を強くもつことでした。

「振り返り」の時間を確保するには、どの教科においても「教師が自力解決や比較検討にかかる時間配分をしっかりとマネジメントすること」「子どもたちも限られた時間でしっかり取り組むこと」を互いに意識することでした。

- (2) 振り返りにコメントする
時間がほとんど取れない

この解決策は、コメントする時間は1教科15分以内、そのためにコメントはシンプルにすることでした。

具体的には「波線を引く」「サインをする」「スタンプをおす」のいずれかで良いということでした。もしコメントする場合は「いいね」「そうだね」「GOOD!」「なるほど」等の共感的なものを1つで十分だとおっしゃっていました。

この2点は比較的取り組みやすいポイントだと思います。私も昨年度はこの2点から取り組みました。また、**「授業の導入時に、前時の振り返りを数名指名して発表させる」**を加えると、子どもたちは「振り返り」を大切にするようになると教わりました。

発表させることによって、**子どもたちは、どのように（どのような視点で）書けばよいか具体的にわかり、自分も指名されてみたいと意欲が高まる**ということでした。また、「**子どもたちの中で前時と本時のつながりが自然にできる**」という良さも見えてきます。できることから始めてみませんか。先生方一人一人のオリジナルが見つかりそうですね。

「振り返る活動」に関する具体的な取り組みを3回に分けて紹介させていただきました。今後も先生方の授業づくりのヒントになるような情報を提供できるようにがんばりますので、学推だよりをどうぞよろしくお願い致します。